

令和4年度の表彰案件概要（内閣総理大臣賞）

<b>内閣総理大臣賞</b> 「事業所・地方公共団体等」分野	受賞者名 <b>カットショップシヨーン</b>
	取組の実践場所 <b>青森県青森市</b>
	受賞テーマ <b>「いつまでも 人も 地球も 美しく」 永続する楽しい日常をつくる道を美容室からお客様へ</b>

受賞者は、個人の小規模経営ながらも長年にわたり、スタッフ全員それぞれが自ら考えて工夫する3R活動、さらにはSDGsや低炭素社会にもつながる環境全般に配慮した活動を行っている。

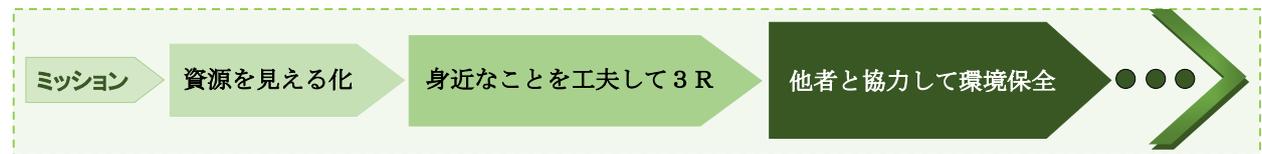
同店は1997年3月のオープン時からミッション「いつまでも 人も 地球も 美しく」を掲げ、以来25年間、少しずつではあるが3R活動や環境保全活動を増やしてきた。オープン当時はまだ、環境問題が身近なこととして捉えられていない頃であり、同店のミッションも、どこまで顧客に理解してもらえるのか、わからない状況であった。

その中で、誰か1人が頑張るのではなく、スタッフ全員が最初のうちはよく分からなくても行動できるようにと、美容室において変動費（売り上げに応じて変動する費用）にあたる電気や水、灯油の使用量を売上1万円当たりの使用量でグラフ化して提示し、「資源を見える化」することから活動を始めた。

2008年には「もったいないプロジェクト」を設置し、プロジェクトリーダーを中心としてスタッフ全員で業務そのものがどこからでも3R活動につながることを念頭に置いて活動に取り組んでいる。

オープン時から現在に至るまで、スタッフ自らが技術工程の見直しを含めた3R推進活動を続けているのは、拙速に活動を拡大するのではなく、まずは目に見える形で現状を把握して「手元にある身近なものを使って工夫すれば廃棄物を減らせる」と考える段階、そのうえで「エネルギーに頼らなくてもいい部分は私たちの工夫で、頼らざるを得ない部分は自然エネルギーで」等の他組織の力を借りてミッションを実現する段階と、緩やかに活動をひろげている点大きい。

また、2007年7月に創刊したオリジナルフリーペーパーには、「エコdeシヨーン」と称するコーナーを設けて、環境保全関連の活動報告やコラムを掲載してきた。2022年3月には第78号を発行し（現在も継続中）、来店した顧客に手渡している。同店がエコロジカルな視点で営業をしていることを理解してもらい、顧客にも協力してもらい、3Rはもとより環境保全全般に関心を持って日常を過ごしてもらえるようにと、記事の内容や組みあわせなどに工夫を重ねている。



具体的な活動の例としては、以下のことなどを行っている。

1. リデュース

- ・パーマ液のアプリケーション（スポイト）に薬剤使用量の目安メモリを書き入れ、ムダ使用による廃棄削減に努めている。
- ・2015年6月から、ヘアカラー塗布後のカラー剤残量ゼロを目指し、使用カップの残量を毎回計測して、スタッフの意識改革を促すことによる残量削減に努めている。
- ・コームを使って、地肌に薬剤をつけないように染める塗布テクニックをアルカリカラーにも取り入れることにより、無駄な薬剤を減らし、洗い流し時の薬剤廃棄減量を行っている。
- ・ヘアカラー施術では、アルミホイルを用いて行うローライト塗布技術を、再利用可能なカラーパレットを使用する技術に改良、仕上がりの改善とともに廃棄アルミホイルの減量につなげている。

- ・ゆるい粘性のストレート剤は通常、カップに出して刷毛で塗布するが、使いすぎや出しすぎを避けるためスポイトを使用し、ピンポイントに塗布することで残量ゼロを実現している。
- ・シャンプー台では、有害物質を取り除き環境浄化作用がある設備を設置し、機能水を使用することで排水時の環境負荷を削減している。
- ・薬剤のついたタオルのつけ置き洗いの徹底など洗濯方法の改善や、施術後にカップに残った薬剤を拭き取ってから洗うなど、極力汚水を減らす節水管理を徹底している。
- ・プラスチック使用減量のため容器包装簡素化の可能な商品を顧客に奨励し、詰替え、量り売り販売を実施、ボトルの再利用を薦めている（2007年頃から実施。）
- ・店内で使用する材料は、可能な限り詰替商品を使用している。
- ・店販用の包装材を利用した紙袋にするとともに、一部は顧客の理解を得て店販袋（物販用の袋）なしで商品の引渡しも行っている。
- ・店内散髪掃除用のほうきは、ラバー箒（古くなったらラバー部分のみの交換可能）を使用している。
- ・カルテ記入や事務に使うペンは、替え芯を使用している。
- ・配送の脱ダンボール化に取り組んでいる美容ディーラーには、集荷BOXでの積み替えで配送してもらっている。
- ・店内の床清掃時に使用するワックス及び剥離剤は、環境負荷を低減（ごみの減容化）する低炭素型容器を採用した製品を使用している。（燃焼の際の有害ガスの発生がなく、ダンボールはラベルをはがさずリサイクル可能なもの）
- ・ミーティング資料、販売促進企画検討資料、人材教育用の提出資料等は印刷せずにPDF・JPG化してスタッフ全員で使用しているビジネスチャット上で閲覧検討することにより、紙の使用量を削減している。
- ・電子化されて受領した領収書などの会計書類は、PDF化して電子保存している。
- ・2021年11月～2022年1月の期間限定の試みではあったが、期間中、年末年始の福袋を購入する顧客にはオリジナルのエコバッグを作成して店販袋にして配り、エコバッグ持参の習慣化を呼び掛けた。

## 2. リユース

- ・パーマ施術時に使用するワインディングペーパーは、リユース可能なものを使用している。
- ・古くなった施術用タオルは、雑巾として再使用している。
- ・使用しなくなった紙の裏をメモ用紙として再使用している。
- ・施術中に顧客が使ったマスクは、使用后、古雑誌を再使用してつくった紙のケースに一人ずつ入れてもらい、廃棄処分している。
- ・脱プラスチック対策にメーカーが材料配送に採用している緩衝材の紙も、顧客の使用済みマスクの廃棄用ケースにしている、他にメモ用紙、カラーカップの拭き取り用紙に再使用している。

2022年は、ヘアカラーチューブリサイクルの取り組みを始めていて、使用済みヘアカラーチューブリサイクル・ごみ削減・環境保全活動推進を目指している企業に対し、使用済みヘアカラー薬剤チューブの返却を予定している。手続きの完了後、引き取りの規定量が確保され次第、出荷することとしている。



写真左：

目安メモリーを書き入れた  
アプリケーションター

写真中：

再利用可能なカラーパレット

写真右：

フリーペーパーの抜粋

上記以外にも、ヘアドネーションへの協力、自然エネルギー100%の使用など、3Rだけでなく、人と環境全般に配慮した様々な活動を続けている。

令和4年度の表彰案件概要（経済産業大臣賞）

受賞者名

**株式会社クリエイトエンジニアリング**

取組の実践場所

**愛知県岡崎市**

受賞テーマ

**金属切削屑を再溶解用に固形化しつつ付着切削油を回収再利用する装置の開発と実用化**

**経済産業大臣賞**  
「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者の取組は、旋盤など工作機械の金属切削屑（以下切粉）排出口から排出される切粉（きりこ）を、固形化して再溶解（リサイクル）できるようにし、切削油も抽出して再利用（リユース）できるようにする、洗濯機より少し大きいほどの小型で低価格の画期的な自動切粉破碎圧縮機の開発と実用化に関するものである。大型装置を導入するスペース、資金力の乏しい小規模企業でも設置でき、大規模企業では、本装置を分散配置できるなど、より効率的な3Rを実践できるようになり、切粉油流出による環境汚染防止も達成されるものである。

この装置は、切削加工時に発生するカール状、チップ状など様々な性状の異なる切粉を、1/5～1/50に減容・固形化して再溶解（リサイクル）でき、切削油も98%以上回収して再利用（リユース）できて、消費量を削減（リデュース）するなど環境性能に優れている。

<先駆性、独創性>

① 従来の装置は、金属切削加工工程で発生する様々な形態、寸法の切粉を無理なく圧縮成形室に入れるために、圧縮成形室の内径を大きくした結果、大きな油圧圧縮シリンダーと油圧源が必要になり、装置が大型化して高価になり、導入対象が限定されていた。

また、破碎機構がないので、旋盤などから排出されるカール状の切粉など様々な性状の切粉には対応できない問題があった。本装置は、様々な形態、寸法の切粉でも捕捉して破碎する専用のコンパクトな内蔵破碎機を独自開発し、切粉を一旦破碎してしまうことで、圧縮成形室の内径を大きくせず集積し、小さな圧縮動力で圧縮成形品を得て再溶解（リサイクル）へと繋げている。

② 切粉に付着した切削油は、圧縮工程で抽出される。滲出した切削油はオイルパンで受けて内蔵の回収ポンプで装置外部に取り出して簡単に回収して再利用（リユース）できる。切削油の流出による土壌汚染も防止でき、環境負荷の軽減に貢献している。

③ 小さな内径の圧縮成形室なので小さな油圧圧縮シリンダーで成立し、油圧システムも小型化され、必要圧縮力が小さいので構造部材も簡素にでき、小型、軽量、低価格化が実現している。

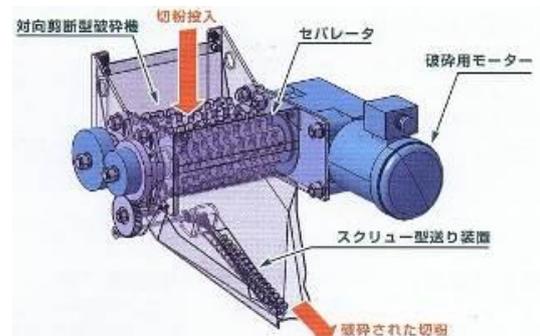


図1 独自開発した専用破碎機  
(これにより様々な性状の切粉を処理可能になった)



図2 本装置（赤枠）を工作機械の切粉出口に設置した例

さらに、切粉中の端材等の異物を、アラーム停止することなく機外に排出する独自開発の異物排出機構内蔵装置や、圧縮ピストンの外径を大きくせず圧縮力を50%増大できる独自開発の増圧機構内蔵装置も開発し、実用化に成功している。